

第1回人文・社会科学系研究推進フォーラム

2014年12月22日（月）13時～17時30分、大阪大学豊中キャンパス

主催：大阪大学大型教育研究プロジェクト支援室、共催：筑波大学 URA 研究支援室・京都大学 学術研究支援室

URAからの話題提供「国内外の人文・社会科学系研究に対するURA業務事例紹介」

○森本行人（筑波大学 URA 研究支援室）、白井哲哉（京都大学 学術研究支援室）、川人よし恵（大阪大学 大型教育研究プロジェクト支援室）、稲石奈津子（京都大学 本部構内（文系）URA室）

筑波大学 URA の森本です。今日はみなさんお忙しい中来て下さりありがとうございます。今日は朔旦冬至といって、19年7ヶ月に一度、新月と冬至が重なるという、かなりおめでたい日です。こんな日に第1回フォーラムができることをとてもうれしく思っています。グループワークになるべく時間を割きたいと思いますので、私からは、今までの人社系関連 URA 業務を簡単に紹介します。

はじめに：本フォーラムの開催経緯・趣旨、URAの役割

まず初めに、このフォーラムのなりたちですが、人文・社会科学系の研究のかかわる研究者、URA、事務系職員等がともに議論することが、今日のミソです。議論し、考え、行動することで、よりよい研究推進のあり方を模索するものです。日本の URA が組織の枠を超えてつながり「人社系研究に対して自分たちは何ができるか」と活発に議論するなか、こうした場が生まれました。今日に至る流れとして、2013年11月に「人文社会科学系への支援のあり方」セッション（第3回 URA シンポジウム・第5回 RA 研究会 合同大会）があり、それを継承するような形で、2014年9月に「人社系分野への研究支援と研究評価～グッドプラクティスを探る～」セッション（第4回 URA シンポジウム・第6回 RA 研究会 合同大会）を行いました。2つめのセッションのメンバーで、今回のフォーラムを企画いたしました。

今日来ていただいた中に URA とは何ぞやということで、ぼんやり思っておられる方もいるかもしれませんが、実は文科省による定義は次のようなものです。「本事業における URA は、大学等において、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材を指します。例えば、研究者とともに行う研究プロジェクトの企画、研究計画等に関する関係法令等対応状況の精査、研究プロジェクト案についての提案・交渉、研究プロジェクトの会計・財務・設備管理、研究プロジェクトの進捗管理、特許申請等研究成果のまとめ・活用促進などが URA の業務として考えられます。」

リサーチ・アドミニストレーターという職種は米国では古くからあり、もちろん欧州に

も存在するのですが、国や地域、大学によってその具体的な役割は様々です。リサーチ・アドミニストレーターという肩書きの人もいれば、リサーチ・マネージャー等、他の肩書きで活動している方もいらっしゃいます。日本ではRA（リサーチ・アシスタント）との混同を避けるためにURAと呼ばれることが近年多くなっています。

これは西尾先生のスライドにもあったのですが、学術の基本問題に関する特別委員会（第7期）第10回の配布資料資料3-1「これまでの意見のまとめ」のランダムチョイスです。

『World Social Science Report』では環境問題を扱っており、これは世代間の資源配分問題で、哲学的な問題も入っているが、昔から哲学者は将来にかけてのデザインには踏み込んでこなかった。しかし今まさにソーシャルサイエンスでは、サイエンスポリシーに対する社会学的研究により将来評価のフレームを作るなどしている。日本はこうしたフロンティアに出ていっておらず反省点が多いが、これも将来の道のを考える上では非常に重要であり、こうしたフレームワークに関して、人文社会科学についての目配りを入れて頂きたい。」というような意見もあるということです。

フォーラム自体の位置づけなのですが、今回は1回目として、この後のグループワーク、全体ディスカッションを通じて、共通認識、現状認識を行っていきます。2回目以降は1回目に残った解決策や大きな課題を考える、また、個別の課題を洗い出すというのでもいいと思います。本日の議論を大学に持ち帰って考えられる方もいると思いますので、それをまたフォーラムにぶつけていただければ。そして、3回目では何らかのまとめを行うという目標を持っています。議論が必要なら継続審議をして4回目以降もあり得ます。今日の1回で終るのではなく、継続的にやって行きたいと考えています。

人社系に対するURAの業務例～ポスターセッションで共有した情報から

URAの業務例は非常にたくさんあります。このスライドは第4回URAシンポジウム・第6回RA研究会 合同大会で我々がポスターセッションを行ったときのものです。会場にポスターを貼ったときは、このフセンは一枚もありませんでした。縦軸はプレアワード、ポストアワード、横軸はシステムティックサポート、オーダーメイドサポートです。この4象限に、現在行っている業務を、このようにフセン等で貼ってもらいました。

様々な意見や取り組みがあると思います。ご意見やご質問などありましたら、これ以降の時間でこのメンバーに直接お声掛けください。お手元の資料のフルスライドは、ウェブサイトに公開されていますのでよろしければご覧ください。

以上、駆け足になりましたが、私からの話とさせていただきます。